

平成29年度の試験課題と研究会の予測課題との比較一覧表(検証) 【平成29年度 設計課題:小規模リゾートホテル】

・研究会によるH29予測課題(3課題&記述)は、ギリギリで**80%以上ズバリ的中**したと言える。

・**予測課題**については、表1の通り、若干の数値等の違いはあるが、本試験内容の項目が8割は的中している(予測できなかったのは、「トレーニングルーム」、「リラクゼーションスペース」、「車回し」である)。

⇒要求図書では、配置図の単独要求がなかったため、この点の予測は、ズバリ的中した(3案とも配置図兼平面図を予測)。

⇒建設用地は、50m×36m予測に対して、本試験54m×42mと多少大きな敷地(指定㎡数も多少大きい)であったが、それ以外の南北での勾配敷地(高低差4m)、北側道路、南側湖及び勾配屋根の指定は、予測課題がズバリ的中した。

⇒要求室は、多少の数値の違いはあるものの、下表の通り、「トレーニングルーム」以外は的中している。

⇒屋外施設は、「リラクゼーションスペース」と「車回し(車回しから隣地駐車場への動線)」の予測ができなかった。

⇒その他として、宿泊施設で「間口4m以上」という条件があり、この点は、予測できなかった。研究会推奨の7m×7mグリッドを8m×7mグリッドに変更すると、この条件は容易にクリアできた。

・**記述課題**については、表2の通り、予測できなかったのは、「(3)コンセプトルームの計画」と「居室のダクトルートの計画」であった。

⇒「コンセプトルーム」は、各自が提案計画する要求室であり、それを採用した考え方を記述すれば特に難しい。

⇒「居室のダクトルートの計画」は、予測できなかった。ただし、「厨房のダクトルートの計画」と「全熱交換器採用の給気計画」について記載しているため、この応用で記述できたものと推定する。

・**まとめと課題**は、全体的にはギリギリ80%以上の中と言えるが、研究会の予測課題3案は、できる限り異なる内容にして、的中率を更に向上させる必要がある(予測課題3案では、車回しを一方通行方式としたが、本来の車回しも計画すべきであった等)。

⇒センターは、必ず予測し難い内容を組み込んでくる。今年の「コンセプトルーム」による試験者提案型の内容は、意表を突くような課題条件であったが、そのような中でも予測的中できるようにしていきたい。

表1 H29本試験課題と研究会の予測課題との比較

は本試験で出題された内容と研究会が推定した内容が類似したものを示す(細かい数値等の違いは類似したとしている)。

センター	試験課題 2017.10.8	建設用地				指定㎡数 (**~**) 以上、以下指定	東西南北の条件				屋根 形状	要求室												屋外施設等						
		規模 (㎡)	横 (m)	縦 (m)	傾斜条件		東	西	南	北		宿泊部門				共用部門				管理部門				リラクゼーションスペース (㎡)	車回し駐車場と動線 (m)	車いす (台)	サービス (台)			
												宿泊室A	宿泊室B	宿泊室C	リネン	エントランス	レストラン	ショップ(売店)	浴室	トレーニングルーム	コンセプトルーム	ラウンジ	事務室					フロント	従業員休憩室	設備室
		2,268	54	42	(南⇒北) 平坦25m⇒傾斜12m ⇒平坦5m	2,400 ~ 2,800	樹林	樹林 駐車場	湖	道路	勾配屋根	2人10室 (35㎡)	バ2人2室 (35㎡)	4人2室 (70㎡)	適宜	適宜	40人 (適宜)	50㎡	男女別 (130㎡)	100㎡	適宜	100㎡	6人	適宜	適宜	空調適宜 電気70㎡ 機械140㎡	50㎡	12m円	2	2
研究会	予測課題1 2017.8.8	1,800	50	36	(南⇒北) 平坦10m⇒傾斜16m ⇒平坦10m	2,200 ~ 2,600	樹林	樹林	湖	道路	勾配屋根	2人10室 (30㎡)	バ2人1室 (適宜)	4人3室 (60㎡)	-	適宜	40人 (適宜)	適宜	男女別 (120㎡)	-	多目的室 (180㎡)	-	5人	-	適宜	適宜	-	-	1	1
	予測課題2 2016.8.22	1,750	50	35	(南⇒北) 平坦10m⇒傾斜15m ⇒平坦10m	2,000 ~ 2,400	樹林	樹林	道路(湖)	樹林	勾配屋根	2人10室 (25㎡)	バ2人1室 (50㎡)	2人8室 (50㎡)	適宜	適宜(吹抜)	50人 (150㎡)	50㎡	各12人 (適宜)	-	-	エントに有	5人	適宜	適宜	適宜	-	-	2	2
	予測課題3 2016.9.4	1,750	50	35	(南⇒北) 平坦10m⇒傾斜15m ⇒平坦10m	2,000 ~ 2,500	樹林	樹林 駐車場	道路(湖)	樹林	勾配屋根	2人10室 (25㎡)	バ2人1室 (50㎡)	4人8室 (50㎡)	適宜	適宜(吹抜)	40人 (適宜)	80㎡	男女別 (200㎡)	-	-	エントに有	4人	適宜	適宜	適宜	-	-	2	1

表2 H29本試験記述(計画の要点等)と研究会の記述予測との比較

は本試験で出題された内容と研究会が推定した内容が類似したものを示す(細かい文章表現の違いは類似したとしている)。

NO.	センターの試験課題(記述)	研究会の予測課題(記述)
(1)	採用したパッシブデザインについて特に考慮したこと(3つ以上の手法)	環境① パッシブデザインを積極的に取り入れた計画とするために工夫したこと 別解説「パッシブデザイン」
(2)	客室B(車椅子利用者用客室)の室内計画において、バリアフリーに配慮した設計の考え方や設計のポイント(仕様、各種寸法等)について特に考慮したこと(3つ以上)	計画③ バリアフリー及びセキュリティについて工夫したこと 別解説「バリアフリー」
(3)	コンセプトルームについて、設計条件や特記事項を踏まえ、既存の観光資源等を任意に想定し、「使用目的とその効果」及び「設い(内装、什器、設備機器等)」について提案すること	⇒コンセプトルームを予測できなかった(予測した多目的室を応用すれば作図は可能)
(4)	建築物全体の「構造種別・架構形式」、「スパン割り」及び「主要な部材の断面寸法」について特に考慮したこと	構造① 建築物に採用した構造種別、架構形式及びスパン割りとこれらを採用した理由 「主要な部材の断面寸法」は、質疑応答の「柱部材寸法」で全ての推奨部材寸法を提示あり
(5)	地盤条件(軟弱な地盤及び良好な地盤)及び敷地の形状(斜面地及び平坦部)を踏まえて計画した基礎構造について、「採用した基礎構造の形式」、「基礎底面のレベル」、「基礎梁の寸法」等について特に考慮したこと	構造② 傾斜地を考慮した構造計画について工夫したこと。 ⇒この解答で基礎の解説あり
(6)	斜面地における地下1階の構造躯体の計画に当たり、土圧・水圧対策等について特に考慮したこと	構造② 傾斜地を考慮した構造計画について工夫したこと。 別解説「傾斜地の計画」、予測課題の解説に「土圧による耐力壁採用等」あり
(7)	各階の居室に外気を送風するためのダクトルールの計画において、空調機械室及びダクトスペースの配置について特に考慮したこと	⇒設備記述キーワードで厨房のダクトルート解説及び設備①の解説補足で一部外気取り入れの解説があるが、居室の外気ダクトルートの予測はできなかった